

臨床倫理メデイエーション

4 倫理の歴史——生命倫理の誕生——

国立大学法人山形大学医学部
総合医学教育センター
中西 淑美

倫理とは、人間がこの現実という、生きていく世界で、「何を」、「今、ここで」、「実践していくのか」、「振り返るべきことではないのか」を問い続けることである。では、人間は自らの行為を他人や社会との関係の中でどのように考えてきたのか。

1 西洋での道徳・倫理の歴史

イギリスのジェレミー・ベンサム(1748-1832)の「功利性の原理」(最大幸福原理)、ジョン・スチュアート・ミル(1806-1873)の『自由論』の「他者危害の原理」(法の支配下にある共同体の成員の幸福を増進することをどのように達成するかを目的とする)を

はじめ、ジョン・ロールズ(1921-2002)の『正義論』、アラスデア・マッキンタイア(1929-)の『徳の理論』は、今日でも話題にのぼる倫理の理論である。今日一般に、「倫理学理論」とされているものには、義務論(deontology)、帰結主義(consequentialism)、「正義」egoism、功利主義(utilitarianism)などを含む)、共同体主義(communitarianism)、徳倫理学(virtue ethics)、ケア倫理学(care ethics)、決疑論(casusistry)など多様な理論が提起されている。

これらについての歴史的紹介は、門外漢の筆者の力を超え、とても語りきれぬものではない。各々専門書や概説書を参照してほしい。ここで

いうまでもない。

行為の領域(タ・プラクタ)にあつては、それぞれのことがらを単に観照的に考察して、それを単に知ることがではなく、むしろ、それらを行なうということが、究極的目的なのではないのである。このように、西洋では、文化の多様性を認めつつ、人間の尊厳・人権・自由を基本においた深い思索が重厚さをもつて、人間の営みを省察し、理論的探求の歴史が刻まれることになったことは

この倫理学の問いについて、筆者なりの理解でいえば、(1)その行為が正しい(よいこと)か、(2)正しいと言えるのはなぜか、(3)そう言えるための前提や起源の説明はできるのか、(4)どうやったら、(1)~(3)のような人を教育できるのか、(5)具体的にはどうやって実践するのか、の5つである。以降は、このような視点に立つて、医療で中心的となる生命倫理の歴史を見ることに

する。

2 生命倫理の流れ

我々の最も関心の高いナチズムによる人体実験の問題をはじめ、個人の権利意識の台頭及び医事訴訟の問題、技術の発展と新しい治療技術などの出現を中心に、倫理に関する事件を年表(表1~4)にまとめた(5)(6)(7)。これらは、大きく4つの時代に区分できよう。

※表内の表示において、下線は国際的項目 国名がないものは主に日本での項目

表1

生体実験が行われる 【1932年~1945年】	1932年	陸軍軍医学校内に防疫研究室(石井四郎)を設立し、人体実験の「東郷部隊」開設。 (ハルビン郊外の青陰河(ペインホ)に300人規模の人体実験施設を開設)
	1933年	アラバマ州メイコンで梅毒の人体実験「タスキギ研究」始まる。1972年まで続いた。
	1938年	平房(ピンファン)に人体実験部隊施設を移設 (東郷部隊→関東軍防疫部→関東軍防疫給水部[1940]→以後、731部隊[1941])
	1941年	ブレスラウ大学(ポーランド)での肝炎感染人体実験 クルト・グートツァイト教授、イギリス人捕虜を使った肝炎感染実験に失敗、精神病院患者を被験者に実験を継続。
	1942年頃~1945年	ナチスドイツ、ユダヤ人強制収容所内において捕虜・囚人を使った人体実験が広範囲におこなわれる。(優生学を根拠に)
	1945年	九州大学医学部生体解剖実験

表2

人体実験への反省と臨床研究での人間の尊厳・人権のあり方が問題となる 【1947年~1969年】	1947年	米国ミッチャーリヒ『人間性なき医学』。ヴァイツェッカー『安楽死と人体実験』
	1947年	ニュルンベルグ綱領(ナチスの人体実験に対するニュルンベルグ裁判)
	1949年	日本哲学会設立
	1950年	日本倫理学会設立
	1952年	新潟精神病院ツツガネムシ病菌接種事件
	1952年	名古屋市乳児院大腸菌感染実験
	1956年~1972年	ニューヨーク州スタッテン島ウィローブルック州立学校(知的障害児施設)における肝炎ウイルス感染実験
	1960年	薬事法施行 人類遺伝諮問機関(HGAC、国家生命倫理委員会の役割も持つ)中心に研究倫理への対応へ
	1961年~1962年	サリドマイド事件(薬害と臨床試験)
	1962年	米国・FD&C法改正
	1963年	キセナラミン事件(臨床試験とインフォームド・コンセント)
	1964年	ヘルシンキ宣言(世界医師会第18回総会にて、ニュルンベルグ綱領を受けて「ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則」という倫理規範が成立)
	1966年	南光病院事件、米国・動物福祉法(PL89-544) 英国王立内科学会(RCP)設立 米国・ピーチャー「倫理と臨床研究」NEJM論文 NIHとFDAで倫理指針を発表 最初の研究審査委員会(REC)が設立
	1967年	英国王立内科学会(RCP)の最初のガイダンスが出される
	1967年	米国・バップワース「人間モルモット」バーナードによる心臓移植手術(心臓移植・臓器配分問題)
1968年	英国薬事法(Medicines Act 1968 Part)の施行	
1969年	広島大学原爆放射線研究所がん治療実験	

は、これらの理論が、今日の生命倫理や臨床倫理において、どのようにつながっていったかについて簡略に述べる。

「実際に起きている倫理的問題」における「正しい」ことや行為を指示したり根拠づけたり、回答することは可能であるとし、上述の「倫理学理論」を背景に発展した倫理的探究が応用倫理学的探究である。すなわち、理論倫理学の成果を用いて発展した応用倫理学的探究は、現在では、応用倫理学としてまとめられる。その主なものとして、生命倫理、脳神経倫理、医療倫理、環境倫理、経済倫理、情報倫理、動物倫理を挙げることができる。

土屋は、倫理学基礎論も、理論倫理学も、目的や方向性は異なっても、「実際に起きている問題」に適用できなければ、倫理学の理論とはいえないとし、これらの倫理学理論は、倫理学的問いによって、相補関係にあると述べている。歴史的に概観すると、倫理学の考え方は人間の実践において「常に正しい道徳的規則の存在」を、絶対的又は相対的にとらえるかを巡る議論にあるといえよう。実践は人間の行為そのものである。古代ギリシャのアリストテレスの『ニコマコス倫理学』においては、「実践とか

表4

個々の被験者の権利及び利益の優先と適切な倫理的及び科学的な教育と訓練の時代 【2000年～2016年現在】	2000年	「ヘルシンキ宣言」エジンバラ改訂(COI追加)利益相反に関するAAMCの提言
	2001年	EU臨床試験指令発令
	2002年	「ヘルシンキ宣言」ワシントン改訂(イングランドのMREC、LRECを中央で調整する機関である中央倫理委員会(COEC)の設置)
	2003年	「臨床研究に関する倫理指針」制定
	2004年	EU臨床試験指令の英国での施行
	2004年	「ヘルシンキ宣言」東京改訂
	2004年	国際生命倫理学会設立
	2012年	日本臨床倫理学会設立
	2013年	「ヘルシンキ宣言」フォルタレザ改訂
	2014年	理化学研究所STAP細胞事件、ディオバン事件、東京大分子細胞生物学研究所に見られる論文ねつ造事件 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」制定
	2015年	「遺伝子治療等臨床研究に関する指針」「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」制定(改訂)
	2016年	専門医制度の中で倫理的研修の必要性への検討始まる

次回回、倫理の歴史を引き続き、振り返りながら、医療倫理への検討を深めることにする。

このことから推測されるように、生命倫理は、現実の実践の問題において、「自己決定」原則を最重視するのではなく、倫理生活における社会的要素や文化的要素の役割にも同等に注意を向けることが重要であると認識されてきた。繰り返し改訂されるヘルシンキ宣言は、まさに、人類の地球環境に基づく危機管理の問題に覚醒するよう、具体的な実践の場において、倫理的思考で取り組むことを要請しているのである。今日の日本の医療の現場においては、「生きること」の倫理的な検討の場を、如何に創っていくのが課題であると、筆者は考える。

参考文献

- (1)土屋貴志著：同志社大学文学部「倫理学特論」講義ノート（アクセス20160702）
<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/tsuchiya/class/doshisha/1-2.html>
- (2)アリストテレス、高田三郎訳：『ニコマコス倫理学』（下）、岩波文庫p180、第10巻第9章、1179b。
- (3)池田光穂：生命倫理学関連年表「医療人類学辞典」（アクセス20160702）
<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/100302bioethics.html>
- (4)2013年のヘルシンキ宣言改定については以下を参照。
http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20131030_21.pdf
- (5)小俣和一郎著：『検証 人体実験 731部隊・ナチ医学』東京：第三文明社、2003
- (6)平岡諒著：『医師が「患者の人権を尊重する」のは時代遅れで世界の非常識』ロハス・メディカル、2013
- (7)Van Rensselaer Potter：Bioethics: Bridge to the Future, Prentice-Hall Biological Science Series, Prentice-Hall, California,1971,205

B(C)を設けて、「生命倫理と人権に関する世界宣言」を策定した。こうして、制度としての生命倫理は1970年代の米国で制度化され、主に1980年代になって日本へ導入された。この生命倫理(bioethics)は、V・R・

ポッターによって、初めて公言された。ポッターにとつての生命倫理とは、地球環境の危機を克服して人類が「生き残るための科学」(the science of survival)とした。「bioethics」は生命や生活を意味する「ethics」を結合して作られた造語である。

(1)【1932年～1945年】生体実験が行われた時代(表1)、(2)【1947～1969年】人体実験への反省と臨床研究での人間の尊厳・人権のあり方が問題となった時代(表2)、(3)

【1972年～1998年】生命倫理への本格的な取り組みが始まり、同時に医薬品の臨床研究のあり方、研究者の利益相反が問題となった時代(表3)、(4)【2000年～2016年現

表3

生命倫理への本格的な取り組みが始まり、薬の臨床研究のあり方、利益相反が問題となった時代 【1972年～1998年】	1972年	タスキギ研究(米公衆衛生局)
	1973年	英国王立内科学会(RCP)が倫理委員会の運営に関するガイドラインを公表
	1974年	米国・国家研究法(PL93-348)
	1975年	「ヘルシンキ宣言」東京改訂 英国・保健省が各保健当局に倫理委員会の設置を呼びかけた
	1979年	米国・ベルモント・レポート
	1981年	日本医学哲学・倫理学会設立
	1982年	治験データ捏造事件
	1983年	「ヘルシンキ宣言」ベニス改訂
	1985年	米国・健康研究拡張法(PL99-158)
	1988年	日本生命倫理学会設立
	1989年	米国保健福祉省(HHS)は科学公正局(OSI)と科学公正監査局(OSIR)設立 DHHS, U.S. Department of Health and Human Services.
	1989年	「ヘルシンキ宣言」九龍、香港改訂
	1990年	旧医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令(GCP)施行
	1991年	米国コモン・ルール成立
	1992年	米国・研究公正局(ORI,the Office of Research and Integrity)設立
	1993年	英国・小児の死体から摘出した臓器が研究用に保存される
	1991年	英国・地域倫理委員会(LREC)制度整備
	1993年	CIOMS人を対象とする生物医学研究の国際倫理指針
	1993年	ソリブジン薬害事件
	1995年	英国ブリストル王立病院での小児心臓手術の死亡率が異常に高いことが指摘 米国・生命倫理百科事典発行
1996年	ICH「医薬品の臨床試験の実施に関する基準」(ICH-GCP)	
1996年	「ヘルシンキ宣言」サマーセットウェスト改訂	
1997年	薬事法改正、新GCP制定 米国Clinton大統領、タスキギ研究に対し謝罪、410万ドルをタスキギ大学に寄付	
1998年	タスキギ大学に「国立バイオエシックスセンター」設置	
1999年	米国・ゲルシンガー事件(医学研究での利益相反)	
1997年	英国・倫理委員会連合会(AREC)発足、多施設研究倫理委員会(MREC)制度整備	
1998年	GCP(Good Clinical Practice)施行	

スコは、国際生命倫理委員会(International Bioethics Committee:IBC)と、各国の代表からなる政府間生命倫理委員会(International Bioethics Committee:IG

在「個々の被験者の権利及び利益の優先」と「適切な倫理的及び科学的な教育と訓練」の時代(表4)である。何が倫理として新たに提起されたかを例としてあげてみると、1962年の人工透析は医療資源配分問題を、1973年～1976年の人工呼吸器による延命措置は生命の質の問題である。さらに、2003年の遺伝子ゲノム解析完了や2006年のiPS細胞(人工多能性幹細胞)は、再生医療や人間の尊厳などの問題を提起している。このような多方面にわたる生命倫理問題に対して、1978年には「バイオエシックス百科事典」が刊行され、1979年の人体実験に対するベルモント報告書から、倫理原則の定式化へ向かった。さらに、世界的な広がりの中、2005年ユネ